



平成30年1月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年9月12日

上場会社名 株式会社クリムゾン 上場取引所 東  
 コード番号 2776 URL <http://www.crymson.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) トウ 明輝  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 半田 紗弥 (TEL) 03-6659-5141  
 四半期報告書提出予定日 平成29年9月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年1月期第2四半期の連結業績 (平成29年2月1日～平成29年7月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

|             | 売上高 |   | 営業利益 |   | 経常利益 |   | 親会社株主に帰属する四半期純利益 |   |
|-------------|-----|---|------|---|------|---|------------------|---|
|             | 百万円 | % | 百万円  | % | 百万円  | % | 百万円              | % |
| 30年1月期第2四半期 | 176 | — | △105 | — | △93  | — | △94              | — |
| 29年1月期第2四半期 | —   | — | —    | — | —    | — | —                | — |

(注) 包括利益 30年1月期第2四半期 △94百万円(—%) 29年1月期第2四半期 一百万円(—%)

|             | 1株当たり<br>四半期純利益 | 潜在株式調整後<br>1株当たり<br>四半期純利益 |
|-------------|-----------------|----------------------------|
|             | 円 銭             | 円 銭                        |
| 30年1月期第2四半期 | △10.57          | —                          |
| 29年1月期第2四半期 | —               | —                          |

(注) 平成30年1月期第2四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成29年1月期第2四半期の数値及び対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

|             | 総資産 | 純資産  | 自己資本比率 |
|-------------|-----|------|--------|
|             | 百万円 | 百万円  | %      |
| 30年1月期第2四半期 | 251 | △194 | △77.5  |
| 29年1月期      | —   | —    | —      |

(参考) 自己資本 30年1月期第2四半期 △194百万円 29年1月期 一百万円

(注) 平成30年1月期第2四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成29年1月期の数値は記載しておりません。

2. 配当の状況

|            | 年間配当金  |        |        |      |      |
|------------|--------|--------|--------|------|------|
|            | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末   | 合計   |
|            | 円 銭    | 円 銭    | 円 銭    | 円 銭  | 円 銭  |
| 29年1月期     | —      | 0.00   | —      | 0.00 | 0.00 |
| 30年1月期     | —      | 0.00   | —      | —    | —    |
| 30年1月期(予想) | —      | —      | —      | 0.00 | 0.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年1月期の連結業績予想 (平成29年2月1日～平成30年1月31日)

(%表示は、対前期増減率)

|    | 売上高 |   | 営業利益 |   | 経常利益 |   | 親会社株主に帰属する当期純利益 |   | 1株当たり<br>当期純利益 |
|----|-----|---|------|---|------|---|-----------------|---|----------------|
|    | 百万円 | % | 百万円  | % | 百万円  | % | 百万円             | % | 円 銭            |
| 通期 | —   | — | —    | — | —    | — | —               | — | —              |

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2. 平成30年1月期第2四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、対前期増減率は記載しておりません。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 —社(社名)— 、除外 —社(社名)—
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

|                     |          |            |          |            |
|---------------------|----------|------------|----------|------------|
| ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) | 30年1月期2Q | 9,002,000株 | 29年1月期   | 9,002,000株 |
| ② 期末自己株式数           | 30年1月期2Q | 58,200株    | 29年1月期   | 58,200株    |
| ③ 期中平均株式数(四半期累計)    | 30年1月期2Q | 8,943,800株 | 29年1月期2Q | 8,943,800株 |

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の経済環境予想等の前提に基づいて作成したものであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## ○添付資料の目次

|                              |    |
|------------------------------|----|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報           | 2  |
| (1) 経営成績に関する説明               | 2  |
| (2) 財政状態に関する説明               | 2  |
| (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明      | 3  |
| 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記           | 4  |
| (1) 四半期連結貸借対照表               | 4  |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 6  |
| 四半期連結損益計算書                   | 6  |
| 第2四半期連結累計期間                  | 6  |
| 四半期連結包括利益計算書                 | 7  |
| 第2四半期連結累計期間                  | 7  |
| (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書        | 8  |
| (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項        | 10 |
| (継続企業の前提に関する注記)              | 10 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)     | 10 |
| (セグメント情報等)                   | 10 |
| (重要な後発事象)                    | 11 |
| 3. その他                       | 11 |
| 継続企業の前提に関する重要事象等             | 11 |

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

当社は、当第2四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期累計期間及び前連結会計年度末との比較分析は行っておりません。

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済情勢は、政府における経済・雇用政策等を背景に、企業収益や雇用環境の改善がされてきたことにより、総じて緩やかな回復基調が続いております。一方で、小売、卸売業界におきましては、根強い低価格志向が見られ消費者マインドの盛り上がりは遅れており、依然として厳しい環境が継続しております。また、世界経済や社会情勢に目を向けると、最近では地政学的リスクの高まりにより、先行き不透明な状況となっていることも、国内の企業や個人に対し投資や消費を抑制する影響を少なからず与えていると懸念されます。

また、当社が属しておりますカジュアルウェア市場におきましては、大手得意先のPB化傾向や天候・気温不順、長雨の影響による大手得意先の店頭在庫消化率低下など、依然として厳しい経営環境で推移いたしました。

このような状況の中、当社におきましては基幹事業であります卸売事業においては、昨年開催した春物・夏物の展示会で企画した商品を中心に主力得意先ごとへ積極的に販売活動に努めるとともに、ブランドごとの特性をいかし、「Piko Hawaiian Longboard Wear」(ピコ)については、アロハシャツと合わせプラスワンアイテムの企画提案に加え、雑貨等への展開も実施し、商材の種類を増やすことで販売力強化に繋げることに注力しております。

「Flying Scotsman」(フライング・スコッツマン)については引き続きグラフィックデザインを強化、「Modern Amusement」(モダンアミューズメント)については、得意先にワンランク上の企画を提案しブランド価値の向上を目指しております。また、他社のブランドを活用した商品群展開とブランドごと各々の商品企画提案強化を行ってまいりました。

また、夏の晩期商戦に向けた夏物衣料の在庫販売も併せて行いました。

ライセンス事業では、卸売事業とのシナジー効果を高めることを目的に、サブライセンシー各社との協業を行い、ポップアップショップ展開での新規取引先の開拓や全社的な広告宣伝活動に取り組み、当社ブランドの魅力を消費者まで伝えるためのビジネスモデル構築を実施してまいりました。

一方で、2月には当社が扱うブランドを一斉に展示した2017年秋物・冬物の総合展示会を開催し、当社のブランド企画提案力をいかし各得意先ごとに提案を行い、秋冬時期に売上が確保出来るよう営業活動を行いました。また4月から7月には、大手ファッション商業施設での期間限定ポップアップショップ催事を展開し、当社既存主力ブランドの2017春物・夏物の販売及び広告宣伝活動にも注力いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、176,476千円、営業損失は105,918千円、経常損失は93,578千円、四半期純損失は94,569千円、親会社株主に帰属する四半期純損失は94,569千円となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### ① 資産、負債及び純資産の状況

##### (資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産合計は、229,963千円となりました。主な内訳は、受取手形及び売掛金が75,980千円、たな卸資産が63,799千円、現金及び預金が57,188千円であります。

固定資産合計は、21,066千円となりました。主な内訳は、投資その他の資産が23,173千円、有形固定資産が5,361千円、貸倒引当金が8,622千円であります。

この結果、当第2四半期連結会計期間末の総資産は、251,030千円となりました。

##### (負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債合計は、443,014千円となりました。主な内訳は、支払手形及び買掛金が381,688千円、短期借入金30,000千円、流動負債のその他が25,990千円であります。

固定負債合計は、2,509千円となりました。この主な内訳は、資産除去債務が2,509千円であります。

この結果、当第2四半期連結会計期間末の負債合計は、445,524千円となりました。

##### (純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、△194,494千円となりました。この主な内訳は、資本金が1,423,913千円、資本剰余金が1,689,953千円、利益剰余金が△3,226,558千円、自己株式が△81,809千円であります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、57,188千円となりました。

なお、各キャッシュ・フローとそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は、115,206千円となりました。これは主に、税金等調整前四半期純損失が93,578千円計上され、売上債権が28,660千円、たな卸資産が20,350千円、仕入債務が13,903千円増加したこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果獲得した資金は、4,351千円となりました。これは主に、保険積立金の解約による収入が6,457千円あったものの、有形固定資産の取得による支出が1,960千円あったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果獲得した資金は、30,000千円となりました。これは主に、短期借入れによる収入があったことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期業績予想については、平成29年9月8日に公表いたしました「営業外収益(為替差益)の発生及び平成30年1月期第2四半期業績予想(単体)の修正並びに連結決算開始に伴う連結業績予想公表に関するお知らせ」の内容から変更はございません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

|             |  | 当第2四半期連結会計期間<br>(平成29年7月31日) |
|-------------|--|------------------------------|
| <b>資産の部</b> |  |                              |
| 流動資産        |  |                              |
| 現金及び預金      |  | 57,188                       |
| 受取手形及び売掛金   |  | 75,980                       |
| たな卸資産       |  | 63,799                       |
| その他         |  | 47,187                       |
| 貸倒引当金       |  | △14,191                      |
| 流動資産合計      |  | 229,963                      |
| 固定資産        |  |                              |
| 有形固定資産      |  | 5,361                        |
| 無形固定資産      |  | 1,153                        |
| 投資その他の資産    |  |                              |
| その他         |  | 23,173                       |
| 貸倒引当金       |  | △8,622                       |
| 投資その他の資産合計  |  | 14,551                       |
| 固定資産合計      |  | 21,066                       |
| 資産合計        |  | 251,030                      |
| <b>負債の部</b> |  |                              |
| 流動負債        |  |                              |
| 支払手形及び買掛金   |  | 381,688                      |
| 短期借入金       |  | 30,000                       |
| 未払法人税等      |  | 5,296                        |
| 引当金         |  | 39                           |
| その他         |  | 25,990                       |
| 流動負債合計      |  | 443,014                      |
| 固定負債        |  |                              |
| 資産除去債務      |  | 2,509                        |
| 固定負債合計      |  | 2,509                        |
| 負債合計        |  | 445,524                      |

(単位：千円)

当第2四半期連結会計期間  
(平成29年7月31日)

|               |            |
|---------------|------------|
| 純資産の部         |            |
| 株主資本          |            |
| 資本金           | 1,423,913  |
| 資本剰余金         | 1,689,953  |
| 利益剰余金         | △3,226,558 |
| 自己株式          | △81,809    |
| 株主資本合計        | △194,500   |
| その他の包括利益累計額   |            |
| 為替換算調整勘定      | 6          |
| その他の包括利益累計額合計 | 6          |
| 純資産合計         | △194,494   |
| 負債純資産合計       | 251,030    |

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

|                     | 当第2四半期連結累計期間<br>(自平成29年2月1日<br>至平成29年7月31日) |
|---------------------|---------------------------------------------|
| 売上高                 | 176,476                                     |
| 売上原価                | 123,383                                     |
| 売上総利益               | 53,093                                      |
| 販売費及び一般管理費          | 159,011                                     |
| 営業損失(△)             | △105,918                                    |
| 営業外収益               |                                             |
| 受取利息                | 0                                           |
| 為替差益                | 10,137                                      |
| 保険解約返戻金             | 2,237                                       |
| その他                 | 52                                          |
| 営業外収益合計             | 12,427                                      |
| 営業外費用               |                                             |
| 支払利息                | 69                                          |
| その他                 | 18                                          |
| 営業外費用合計             | 87                                          |
| 経常損失(△)             | △93,578                                     |
| 税金等調整前四半期純損失(△)     | △93,578                                     |
| 法人税、住民税及び事業税        | 991                                         |
| 法人税等合計              | 991                                         |
| 四半期純損失(△)           | △94,569                                     |
| 親会社株主に帰属する四半期純損失(△) | △94,569                                     |

四半期連結包括利益計算書  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

|                 | 当第2四半期連結累計期間<br>(自平成29年2月1日<br>至平成29年7月31日) |
|-----------------|---------------------------------------------|
| 四半期純損失(△)       | △94,569                                     |
| その他の包括利益        |                                             |
| 為替換算調整勘定        | 6                                           |
| その他の包括利益合計      | 6                                           |
| 四半期包括利益         | △94,562                                     |
| (内訳)            |                                             |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | △94,562                                     |

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

|                         | 当第2四半期連結累計期間<br>(自平成29年2月1日<br>至平成29年7月31日) |
|-------------------------|---------------------------------------------|
| <b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b> |                                             |
| 税金等調整前四半期純損失(△)         | △93,578                                     |
| 減価償却費                   | 727                                         |
| 無形固定資産償却費               | 13                                          |
| 貸倒引当金の増減額(△は減少)         | 10,078                                      |
| 受取利息及び受取配当金             | 0                                           |
| 支払利息                    | 69                                          |
| 返品調整引当金の増減額(△は減少)       | △41                                         |
| 売上債権の増減額(△は増加)          | △28,660                                     |
| たな卸資産の増減額(△は増加)         | △20,350                                     |
| 仕入債務の増減額(△は減少)          | 13,903                                      |
| 未払金の増減額(△は減少)           | △1,606                                      |
| 保険解約益                   | △2,237                                      |
| その他                     | 8,375                                       |
| 小計                      | △113,306                                    |
| 利息及び配当金の受取額             | 0                                           |
| 法人税等の支払額                | △1,900                                      |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー        | △115,206                                    |
| <b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b> |                                             |
| 有形固定資産の取得による支出          | △1,960                                      |
| 敷金及び保証金の差入による支出         | △146                                        |
| 保険積立金の解約による収入           | 6,457                                       |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー        | 4,351                                       |

(単位：千円)

|                     | 当第2四半期連結累計期間<br>(自平成29年2月1日<br>至平成29年7月31日) |
|---------------------|---------------------------------------------|
| 財務活動によるキャッシュ・フロー    |                                             |
| 短期借入れによる収入          | 30,000                                      |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー    | 30,000                                      |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額    | △39                                         |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | △80,893                                     |
| 現金及び現金同等物の期首残高      | 138,082                                     |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高    | 57,188                                      |

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

## (継続企業の前提に関する注記)

当第2四半期連結累計期間の当社の業績は、世界経済の先行き不透明感や厳しい消費マインドの中、当社が属しておりますカジュアルウェア市場におきましては、個人消費は、相変らず節約・低価格志向が強く慎重な消費行動が続く厳しい市場環境の中での推移となりました。その結果、売上高は176,476千円となり前年同期に比べ著しく減少し、営業損失は105,918千円、経常損失は93,578千円、親会社株主に帰属する四半期純損失は94,569千円を計上いたしましたことから、当第2四半期連結会計期間末日において194,494千円の債務超過となりました。また営業活動によるキャッシュ・フローにおきましてもマイナスが継続しております。こうした状況から、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しており、収益性と財務体質の早急な改善を迫られております。

当社は、当該状況を解消し、安定的な収益を確保できる企業体質を構築するために、営業活動においては、既存ブランドについて現在のポジショニングの分析を行い、細分化することで、ブランドポートフォリオの見直しを行い、各得意先に合わせたブランドを選択し企画提案してまいります。また、多様化するニーズに対応するべく取扱いアイテムの拡充などを行い、より市場規模に適した戦略を立案し収益の確保に努めてまいります。併せて、各得意先への提案強化を行うことや、直接消費者への販売及びブランディングを目的とした期間限定ポップアップショップ展開、他社のブランドを活用した商品群などを提案し、営業活動に努めてまいります。

また、ブランドごとに適切な販売促進策の計画を行い、新規取引先の獲得や休眠している取引先の再開を目指し、収益の確保に努めてまいります。

一方、販売費及び一般管理費につきましても、引き続き様々なコスト削減の努力を行いコスト構造の改善に努めてまいります。

さらに、当連結会計年度における収益を確保するために新規事業を計画し着手しております。具体的には、①早期にメンズカジュアル衣料以外の衣料事業への新規展開を図るために主に営業機能を抜本的に見直し新組織体制を構築いたしました。②中国アパレル市場においてより積極的な営業活動及びブランドの訴求活動を行うために平成29年5月に設立された中国子会社についてはすでに中国国内において事業活動を開始しております。③また平成29年8月に不動産関連サービス事業の立ち上げを決定し、今後において中華圏及び在日中国人に向けた不動産売買、仲介の事業を行うことを計画しております。

資金調達手段につきましても、現在検討しており、財務体質の改善に早期に取り組んでまいります。

しかしながら、上記のマーケット戦略及び新規事業による収益獲得の効果並びにコスト構造の改善効果が実現するには一定の期間が必要になると考えられ、これらの対応策を進めている途中において、景況悪化や異常気象、また、インフレや原材料の高騰、為替変動や中国国内における急激な環境変化等により、収益性と財務体質の改善が影響を受けるリスクが存在し、また、資金調達の手段についても現在検討中の状態であるため、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表に反映しておりません。

## (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

## (セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

当社は、所有権及び使用権を有するブランドのアパレル繊維商品(主にカジュアルウェア)に関連する事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(重要な後発事象)

(新たな事業開始計画について)

当社は、平成29年8月4日開催の臨時取締役会において、新たな事業として不動産関連サービス事業の計画を決議いたしました。なお、新たな事業の開始につきましては、準備段階であり、社内における規定、組織図等の整備や有資格者の確保を完了することが条件となります。

当社は、将来に向けた収益力向上を目指し、既存事業でありますアパレル事業の強化に努めております。しかしながら、アパレル市場におきましては近年天候不順や個人消費の低下など厳しい環境下で推移しており、安定的な収益の確保が難しくなっております。

当社としましても、現在において上場廃止リスクの回避及び将来に向けた安定的な収益の確保が責務となっており、そのため、更なる収益力の向上を目的に現在の事業領域を超えた新たな事業として、東京オリンピック開催に向け不動産事業の商機が高まりつつあると判断いたしました。当社代表取締役の鄧明輝は東アジアにおいて幅広い人脈及びネットワークがあり、中華圏及び在日中国人に向けた不動産売買、仲介を計画し、収益の拡大を図るものであります。

### 3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当第2四半期連結累計期間の当社の業績は、世界経済の先行き不透明感や厳しい消費マインドの中、当社が属しておりますカジュアルウェア市場におきましては、個人消費は、相変わらず節約・低価格志向が強く慎重な消費行動が続く厳しい市場環境の中での推移となりました。その結果、売上高は176,476千円となり前年同期に比べ著しく減少し、営業損失は105,918千円、経常損失は93,578千円、親会社株主に帰属する四半期純損失は94,569千円を計上いたしましたことから、当第2四半期連結会計期間末日において194,494千円の債務超過となりました。また営業活動によるキャッシュ・フローにおきましてもマイナスが継続しております。こうした状況から、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しており、収益性と財務体質の早急な改善を迫られております。

なお、詳細につきましては「継続企業の前提に関する注記」を参照下さい。